



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

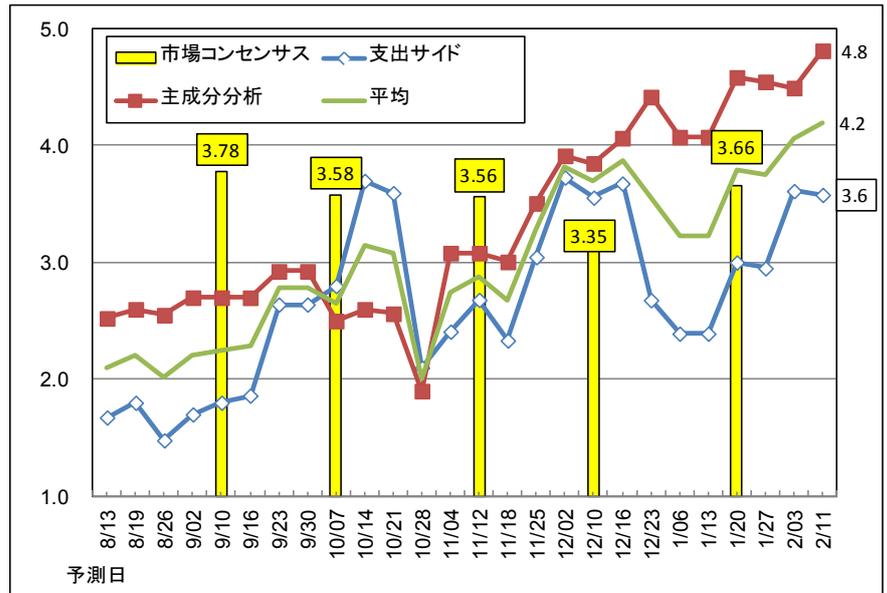
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年2月11日)

ポイント

- ▶今回更新されたデータは、1月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、消費動向調査、景気ウォッチャー調査、12月の毎月勤労統計、景気動向指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。
- ▶景気動向一致指数から、内閣府は12月の景気の基調判断を6ヵ月連続で「改善を示している」と据え置いている。一方、1月の景気ウォッチャー調査の先行き判断DIは2ヵ月連続の前月比悪化。消費者態度指数も同2ヵ月連続の悪化。増税後の反動を懸念する結果といえよう。
- ▶12月の経常収支(季節調整値)は4ヵ月連続の赤字となり、前月比+321.9%拡大した。
- ▶2月17日に10-12月期GDPが発表されるため、今回が最終の予測。超短期モデルは、実質GDP成長率を前期比年率+3.6%と予測。内需は前期から拡大のスピードが加速し、純輸出のマイナス寄与度が前期から幾分和らぐためである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



<10-12月期実質GDP成長率の最終予測は前期比年率+3.6%と前期より加速>

今回更新されたデータは、1月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、消費動向調査、景気ウォッチャー調査、12月の毎月勤労統計、消費総合指数、景気動向指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。

12月の現金給与総額は前年比+0.8%増加し、2ヵ月連続のプラス。12月の消費総合指数は前月比-0.2%低下し2ヵ月ぶりのマイナスとなったが、10-12月期は前期比+0.7%上昇し、伸びは前期(+0.2%)から加速した。

12月の景気動向一致指数は前月比1.0ポイント上昇し、4ヵ月連続の改善。2008年5月以来の高水準。内閣府は景気の基調判断を6ヵ月連続で「改善を示している」と据え置いている。一方、1月の景気ウォッチャー調査の先行き判断DIは、前月比-5.7ポイント大幅低下し2ヵ月連続の悪化。1月の消費者態度指数も前月比-0.8ポイント低下し、2ヵ月連続の悪化したため、2012年12月以来の低水準となった。増税後の反動を懸念する結果といえよう。

12月の経常収支は3ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は前年比+176.8%拡大。所得収支の黒字幅は拡大したが、貿易・サービス収支の赤字幅が拡大したため。季節調整値は4ヵ月連続の赤字となり、前月比+321.9%拡大した。

2月17日に10-12月期GDP1次速報値が発表されるため、今回が最終予測となる。超短期モデル(支出サイド)は、同期の実質GDP成長率を前期比+0.9%、同年率+3.6%と予測。内需は前期から拡大のスピードが加速し(前期比+1.0%)、純輸出のマイナス寄与度が前期から幾分和らぐ(前期比-0.2%)ためである。今週は実質民間最終消費支出、実質民間企業設備の予測値が幾分上方修正されたが、実質民間在庫品増加と実質純輸出の予測値が小幅下方修正された。このため実質GDP成長率の予測値は先週(+3.6%)から変化なし。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690